



人の言っていることがわからないために、誤解を生じる。電話は聞こえない。すべてにづらい。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

難聴についてアンケートを集めたところ、FAXやお手紙で、近年ないほどたくさんのご回答をいただきました。このアンケートが都議会の質問でも、大きな力になりました。



本当は両耳とも使用の方がよいといわれたが、あまりにも高額なので片耳だけにしました。



聞き返しが多く、トンチンカンな返事をする人もあります。この生活から脱却したいです

加齢性の難聴と補聴器に支援を

聞こえのバリアフリー

65歳以上の2人に1人が難聴といわれています。難聴になれば、家でも、外でも、生活が困難になります。政治のサポートを求め、都議会で提案しました。



6月の都議会では、里吉ゆみ都議(世田谷区選出)が代表質問にたち、高齢者をはじめとする都民の移動支援、シルバーパスやコミュニティバスの改善なども求めました。

共産党都議団の提案に重要な答弁が

早い段階から支援を

日本では、かなり重い難聴(※両耳で70dB以上)でなければ、補聴器購入補助が受けられません。一方、世界保健機関(WHO)は、中等度の難聴(※40dB以上)での補聴器の使用を推奨しています。

早期からの補聴器の使用の重要性について質問したところ、東京都から、「**早期からの使用は、日常生活の質の向上を図る上で有効と認識しています**」という重要な答弁がありました。

力をあわせ暮らしに役立つ都政へ

専門家のサポートを受けやすく

せっかく補聴器を購入しても、うまく聞きとれなかったという方も少なくありません。その背景には、必要な補聴器の調整が行われていないことが多いことがあります。難聴は人により程度も聞こえ

にくさも違うので、その人に合わせた補聴器の調整が重要です。この認識を質問したところ、都からは「**調整は重要**」と、ここでも重要な答弁がありました。

補聴器購入に支援を

寄せられたアンケートの声からも、価格が高いことが、補聴器の使用にとっての壁になっています。都が行っている補聴器の支援のさらなる充実を求めました。

平均購入金額は **約27万円**
購入しなかった理由1位は「**価格が高い**」 ※いずれもアンケートから

